

指導案作成のポイント

2 単元の目標
海洋ごみの問題について、聞いたり読んだりしたことを基に、自分の考えを整理しながら、分かりやすく話して伝えることができる。

3 単元と関連する CAN-DO 形式での学習到達目標
社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。
【GRADE 5 話すこと [発表]】

2 単元の目標：単元の学習を通して何が出来るようになるか

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
情報や考えを述べよめるために必要な表現を身に付けている。	聞き手に自分の考えをよく理解して伝えることができる。	主体的に学習に取り組むことができる。

5 単元観：単元で教師が教えたい学習内容と学習方法

5 単元観
本単元は、海洋ごみ問題に関する説明文を聞いたり読んだりすることで、問題解決のために自分ができる取組について考え、環境問題について理解を深めていく内容となっている。扱われている言語材料は現在分詞、過去分詞の後置修飾である。ペアやグループで伝え合う活動を通して新たな情報やものの考え方を得たり整理したりすることで、海洋ごみ問題の解決策について多面的・多角的に考える機会とする。

6 生徒観：単元目標や本時の目標と関連のある生徒の状況

6 生徒観
日頃から帯活動で「話すこと [やり取り]」を伴う言語活動を取り入れていることもあり、簡単な語句や表現を用いて積極的にペア活動に取り組む生徒が多い。一方で、情報や考え、気持ちなどを整理して、聞き手に分かりやすく伝えることに不慣れた生徒も多く見られるため、発表に向けた支援等をしていきたい。

7 指導観：教えたい内容と生徒の実態のずれを埋めるために、どのような指導をするか、目標に近づけるための手立て（指導の重点、留意点、工夫した点、学習形態、資料等）

7 指導観
発表に向けた支援として、情報を整理し相手の興味・関心を引きながら、分かりやすく話して伝える力を育成するため、情報整理のための視点を提示したり、ICTを活用して情報や意見の共有をしながら、発表の際にはモデルを適宜示していく。また、意見交換や、発言・発表に対する質問・助言の際に使用する定型表現を提示することで発表を促し、扱われている題材について多面的・多角的に考える一助とする。

8 単元の指導と評価の計画（総時数：7時間）

時間	主な言語活動等	知	思	態
1	Introduction プラスチックごみの問題点について知っていることをペアやグループで共有する。 Part 1 プラスチックごみが見つかる場所について概要を伝える。（帯活動/内容理解/音読）			
2	Part 1 プラスチックごみが見つかる場所について話して伝える。（リテリング/表現活動）			
3	Part 2 海洋ごみの問題点について概要を伝える。（帯活動/内容理解/音読）			
4	Part 2 海洋ごみの問題点について話して伝える。（リテリング/情報収集/ディスカッション）			
5	Part 3 日常生活でのプラスチックと海洋汚染の問題性について概要を伝える。（帯活動/内容理解/音読）			
6	Part 3 日常生活でのプラスチックと海洋汚染の問題性を整理し、解決のために自分ができる取組について話して伝え合う。（プレゼンテーション・やり取り・ペアでの意見交換）			

※本時の学習（本時6/7）

時間	主な言語活動等	知	思	態
7	まとめ 前時の意見交換をグループや全体で共有し、自分の在り方をよりよくするためにできることを学び、理由とともに発表する。授業の後にスピーチとして動画を撮影したものを Google Classroom で発表する。（プレゼンテーション）	○	○	○
後日	Lesson 4～6に関するパフォーマンステスト	○	○	○

評価方法：活動の観察/振り返りの記録（単元を通して適宜行う）/録画の記録/パフォーマンステスト（後日）
※一斉に記録に残す評価は第7時と後日のパフォーマンステストを行う。
※帯活動例：身近な話題におけるスマールトーク/ミニディベート/速読

8 単元の指導と評価の計画：
・単元全体の中で、各時間での学習を見通した計画
・学習の過程や成果を評価するための、評価の場面や方法
→授業の改善と評価の改善に生かす

9 本時の学習（本時6/7）
(1) 目標
海洋ごみの問題やその解決策について、情報を整理しながら、分かりやすく話して伝えることができる。

(1) 目標：本時の学習を通して何が出来るようになるか

(2) 本時の展開（50分）

過程	学習活動	教師の支援及び留意点
導入	○Warm up 「Who is in trouble because of ocean debris?」について、ペアで伝え合う。 ○その後 FigJam を用いて、海洋ごみによって困っている人や動物についての情報を全体で共有する。	○海洋ごみの問題を身近に感じることができるよう、問題に関する写真を電子黒板で複数枚提示する。 ○海洋ごみの問題について情報を整理、共有できるように、4つの視点を電子黒板で提示する。 【4つの視点】 ① どの地域の ② 誰/何が ③ どのように困っているか ④ 解決策は何か
展開	○本時の学習課題を確認する。 Express your solution to ocean debris to your partner. ○写真とキーワードを使って Google Slide を作成する。 ○ALT のスピーチとその後の JTE とのやり取りを聞き、質問や助言の仕方を確認する。 ○ペアを変えながらプレゼン練習を行い、4つの視点に基づいて、内容や表現について質問し合ったり助言し合ったりする。 ○助言に基づいて、プレゼンの内容や表現を改善する。 ○再度ペアを変えてプレゼンし、自己の振り返りのためにタブレットで録画する。	○4つの視点で整理しスライドにまとめるよう意識させる。 ○ALT が4つの視点に従ってスピーチをし、JTE が内容について質問や助言をするモデルを提示する。 ○内容や表現について、個別に支援したり全体で共有したりする。
まとめ	○自分の録画を見ながら、振り返りの観点に基づいて Google Forms で自己評価を行う。 ○次時の見直しをもつ。	○必要に応じて助言をする。 ○個々に事前準備や練習ができるように、次時の活動について説明する。

【評価】
海洋ごみの問題やその解決策について、情報を整理しながら、分かりやすく伝え合っている/伝え合おうとしている。（活動の観察）
【思考・判断・表現/主体的に学習に取り組む態度】

生徒に提示する本時の目標や学習課題（簡潔な英語で）

展開：学習した内容や表現を実際に自己表現したり、やり取りを行ったりする場面を効果的に設定

本時の目標に対する評価規準

目標の達成状況を振り返り、課題を明確化する時間を確保
→主体的、自律的な態度を養う

※本学習指導案を参考に、自校の実態に合わせてご活用ください。また、年間指導計画も添付してください。